

《 実践事例編 ガイド 》

【小学校：外国語活動】 単元の終わりで、自分の思いや考えを伝え合う活動例 ～ 教科化を見据えて ～

No.	単 元 [Hi, friends! 2]	目 標	主 な 活 動	活動に使用する表現
1	Lesson 4 Turn right.	「ドリームタウン」にある建物や施設への行き方を尋ねたり答えたりすることができる。	ドリームタウンの道案内をしよう	Where is ~? Go straight. Turn right (left). など
2	Lesson 5 Let's go to Italy.	自分の行きたい県と、その県で見たいものや食べたいものについて紹介することができる。	行ってみたい県を紹介しよう	I want to go to ~. I want to see ~. I want to eat ~. など
3	Lesson 6 What time do you get up?	インタビュー活動を通して、自分の理想の生活時刻について伝え合うことができる。	「理想の休日」インタビュー	I get up at ~. I have lunch at ~. など
4	Lesson 8 What do you want to be?	できることや好きなものなどを紹介する表現を入れながら、自分の夢について話すことができる。	夢宣言スピーチ	I want to be ~. I want to go to ~. I like ~. など

【中学校：外国語（英語）科】 3年生でのパフォーマンステスト例

No.	単 元 [NEW HORIZON3]	実 施 時 期	技 能 ・ 領 域	パフォーマンステストのねらい
5	Presentation 1 日本文化紹介	1学期中頃	Writing	湯飲みやひな祭りなどの日本の文化を紹介するための英文を書く。
6	Unit 3 Fair Trade Event	1学期末頃	Speaking【やり取り】	自分の行きたい国についてペアで会話をする。
7	Unit 4 To Our Future Generations	2学期初め頃	Speaking【やり取り】	被災した外国人のためになる支援の仕方を話し合う。
8			Writing	被災した外国人 Kate の書いた英文メモを読んで、彼女が必要とする情報を伝えるためのメモを書く。
9	Daily Scene 4 道案内	2学期中頃	Speaking【発表】	自分が勧める名古屋の名所とそこまでの行き方を紹介し、その後、相手からの質問に答える。
10	Unit 5 Living with Robots — For or Against	2学期中頃	Speaking【発表】	「制服は必要か」について、ペアでの意見交換後、考えを発表する。
11			Writing	携帯電話の使用についての意見が書かれた英文を読み、その意見に対する自分の考えを書く。
12	Unit 6 Striving for a Better World	2学期末頃	Writing	「世界をよりよくするために努力した人」について、その人物を選んだ理由を明確にし、紹介文を書く。

【平成29年3月発行】

《 平成28年度 理念編 》

グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

グローバル化の急速な進展に伴い、児童生徒が外国人と出会い、交流する機会は着実に増加しており、異なる言語や文化を背景にもつ他者を理解し、尊重する態度に基づくコミュニケーションがますます重要になってきています。国内最大のモノづくりの集積地であり、外国人児童生徒が大変多く在籍する愛知県においては、世界に視野を広げるとともに、異文化を理解し、世界中で活躍できる人づくりが喫緊の課題といえます。

とりわけ、英語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種に携わる人々だけでなく、次代を担う児童生徒の生涯における様々な場面で必要とされることが想定されます。さらに、次期学習指導要領では小学校5、6年生で外国語（英語）が教科化され、3、4年生に外国語活動が導入されます。

そこで、私たちは、他者に配慮しながら、「日常的な話題や社会的な話題まで広げて、考えや気持ちを伝え合う」コミュニケーション能力の育成を視野に入れて、グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方について、平成28・29年度の2年間をかけて研究協議を進めていくことにしました。このリーフレットが本県における英語教育を推進する一助となることを願っております。

愛知県義務教育問題研究協議会

愛 知 県 教 育 委 員 会



英語によるコミュニケーション能力の育成を目指して

小学校の外国語活動では？

～ 教科化を見据えて ～

《 目 標 》

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

《 指導の重点 》

- 互いの思いを伝え合う楽しさを味わわせ、コミュニケーションへの積極的な態度を育成しましょう。
- 一単元で授業を設計し、外国語を初めて学習する児童に過度の負担をかけないために「聞くこと」と「話すこと」の活動を中心に指導しましょう。

《 コミュニケーション能力の素地を養うために 》

まずは「聞くこと」から始めよう

- ・ 一語一句全てではなく、意味の塊として理解し、内容が分かったという経験を積み重ねる中で、聞き取れた喜びを話す活動へつなげましょう。

「話すこと」にも進んで挑もう

- ・ 外来語など児童が聞いたことのある表現や身近な話題を活用し、児童が話したいと思う内容や表現を選択しましょう。

「読むこと」と「書くこと」の扱いに十分留意しよう

- ・ 学習指導要領の目標を踏まえ、児童の状況から指導可能かどうかを的確に捉えながら、「読みたい」「書きたい」という思いを高める工夫をして取り扱しましょう。

《 コミュニケーション活動の充実に向けたヒント 》

- 児童の発達段階に応じて、話したいと思う内容や表現を選び、その楽しさを体験できるタスクやゲーム等の活用
- 何度も表現を変えながら聞かせ、ジェスチャーや具体物、絵から類推しながら意味を理解する活動の工夫
- 挨拶、買物、道案内など「特有の表現がよく使われる場面」、学校や家庭での生活など「身近な暮らしに関わる場面」を効果的に取り入れた活動の導入

→ → → 実践事例編【小学校】 参照

中学校の外国語〔英語〕科では？

《 目 標 》

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

《 指導の重点 》

- 小学校での学習を踏まえ、4技能5領域をバランスよく育成し、相互に関連付けて活用できる場を設定しましょう。
- 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を工夫し、文法事項等はコミュニケーションを支えるものという認識をもって指導しましょう。

《 コミュニケーション能力の基礎を養うために 》

小学校で身に付けた能力の素地を生かそう

- ・ より多くの英語に触れさせることで学習内容の着実な定着を図りましょう。
- ・ 第1学年入門期における文字指導の円滑な導入を心掛けましょう。

生徒の興味・関心を高める教材を工夫しよう

- ・ 生徒の実態・ニーズを考えて意欲を喚起するよう工夫しましょう。
- ・ ALTの生きた英語を十分活用し、生徒がコミュニケーションの楽しさを体験できる場面を多く設定しましょう。

実際にコミュニケーションする場面を多くつくりよう

- ・ 生活に即した現実的な場面や英語を話す必然性のある場面を設定するように努めましょう。
- ・ インフォメーションギャップを利用した会話活動やタスク活動など多様な活動を取り入れましょう。

《 コミュニケーション活動の充実に向けたヒント 》

- 既習の文法事項や語句を適切に使いながら、事実や思いを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりする場の設定
- 学年ごとの学習到達目標の「CAN-DO リスト」形式での設定及び年間計画への位置付け
- 技能統合型の言語活動を組み込んだ授業の推進
- スピーチや作文等のパフォーマンステスト、活動の観察等の中から学習状況を的確に評価する方法の選択

→ → → 実践事例編【中学校】 参照

中学校卒業時には、こんな姿に！

※ 愛知県教育委員会版 CAN-DO リスト 参照

《 卒業時に目指す姿 》

- 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解することができる。
- 初歩的な英語を用いて、自分の伝えたいことを表現することができる。

聞 く こ と

- ・ 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができる。
- ・ ゆっくりははっきりと話されれば、やや長い会話や説明など内容的にまとまりのある話を聞いて、背景知識を活用しながら、話し手の意図を理解することができる。

話 す こ と〔やり取り〕

- ・ 必要に応じて話し手に聞き返したり意味を確認したりして対話を続けることができる。
- ・ 聞き手に配慮しながら、聞いたり読んだりした様々なテーマについて対話することができる。

話 す こ と〔発表〕

- ・ 簡単な語句や文、適切なつなぎ言葉を用いて、賛否、理由、感想を明確にし、聞き手の理解を確認しながら自分の意見や主張を話すことができる。

読 む こ と

- ・ 物語や図やグラフの入った説明文など内容的にまとまりのある英文を読んで、背景知識を活用し、必要に応じて推測しながら、概要や要点、書き手の意図を理解することができる。

書 く こ と

- ・ 聞いたり読んだりした様々なテーマについて、読み手に配慮しながら、賛否や理由を添えた意見や感想を、簡単な語句や文を用いて書くことができる。